

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第652号 2024年6月9日

鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2024年4月7日 復活節第2主日 B年
ヨハネ福音書 20章 第19-31節



「見ないのに信じる人は幸い」…毎年、復活節第2主日には、この箇所が読まれ、そのたびに、このことについて考えさせ

られます。

しかし、考えてみれば、わたしたちは、たいていのことは「見ないで信じている」かな、とも思います。例えば人の言うこと。よほどあやしい人や、よく知らない人でない限りは、「…ホントか？」とはあまり思わないのではないのでしょうか。では逆に、わたしたちは何を「見て」信じているのか。ちょっとギョッとする答えが浮かびました。たいていの人には「スマホ」では…？と。目に入る情報があまりに多すぎる現代、そのため、そこに詐欺があったり、フェイクニュースがあったりと、イエスさんの時代には考えられなかった、目に入るものの歪み、ひずみが生じている時代なのかもしれません。

では、そのような中でわたしたちは何に目を向けるべきかと考えると、やはりそれは「見えないもの」なのではないか、と思います。神さまの存在、わざ、思い、人の心や思い。しかし、それに触れるのも、また人を通してなのだよな、とつくづく思います。

神さまは常に人を通してはたらかれます。実際に人と人が出会い、触れ合う中で、そのような目に見えない大切なものを分かち合っている、そして、それも神さまのわざであることを伝えあっている。コロナ禍の3年で半ばそれが失われる恐怖におそわれましたが、だからこそ、その大切さを実感したのも事実でしょう。

見えない神さまに、人の心に、共に目を向けたい、と思います。